

MFJ国内競技規則 2026

付則 19 トライアル競技規則

《2026年トライアル規則 主な変更 追加 削除点》

◆変更

(2025年) 6-10-2 進行方向表示ゲート

(2026年) 6-10-2 再進入禁止ゲート

【補足】 名称変更のみ

(2025年) 12-2-3-2 セクショントライ中に、ライダーとイグニッションキルスイッチのストラップが接続されていなかった。あるいは、接続が外れてしまった場合。

(2026年) 12-2-3-2 セクション走行中に、ライダー（手首など）とイグニッションキルスイッチのストラップ（ランヤード）が接続されていなかった。またはライダーがセクションを走行中/セクションを出るときに、セクション審判員（オブザーバー）がキルスイッチの故障を確認した場合。

※ライダー（手首など）とストラップ（ランヤード）が接続されている状態で、マグネットのみが外れた場合は除く

【補足】 ライダーとストラップが接続されている状態でマグネットだけが外れた場合は失敗（5点）とならない。

(2025年) ライダーまたは車両が、直接マーカーや杭などセクション表示物（関連：6セクション6-4）の現状を変化（テープ、マーカー、杭などに車両またはライダーが直接干渉して壊す、たるませる、移動させる、押し倒す、引きちぎる等の行為）させた場合。ただし、セクション番号、セクション入口（IN）、セクション出口（OUT）の表示物は対象外となる。

(2026年) ライダーまたは車両が、直接マーカーや杭などセクション表示物（関連：6セクション6-4）の現状を変化（テープ、マーカー、杭などに車両またはライダーが直接干渉して壊す、たるませる、移動させる、押し倒す、引きちぎる等の行為）させ、**元に戻す修正が必要になった場合**。ただし、セクション番号、セクション入口（IN）、セクション出口（OUT）の表示物は対象外となる。

【補足】 元に戻す修正が必要ではない場合は失敗（5点）とならない。

(2025年) 12-2-7 セクション審判員（オブザーバー）が、手またはプラカードで示す減点は暫定的なものであり、パンチカードなど記録用紙に記したものが、そのセクションにおける最終的な結果である。暫定的な表示から結果が変更されたり、競技監督から追加減点が通告される場合がある。

(2026年) 12-2-6 **ライダーがセクション走行中にセクション審判員（オブザーバー）が、手またはプラカードで示す減点数は暫定的なものであり、スコアカードやパンチカードなど記録用紙に記したものが、当該セクションにおける減点数である。**

◆追加

12-2-3-15 完全なループをしたあとに前輪または後輪が元の軌跡を越えた（バックも含む）。空中の場合は前後のスピンドルシャフトの位置で判定される。関連規則：用語、定義

12-2-8 記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）を提出後、当該セクションの減点数に誤り（実際の判定と記録用紙の点数に相違がある/虚偽の報告）があることが発覚した場合。当該セクションに対して10点。ただし、暫定リザルト発表後20分以内（IAスーパークラスは10分以内）までに本人から申告があった

場合はこの限りではない。

- 13-5 当該セクションで記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）へのパンチの間違いが発覚した場合はその場でオブザーバーが修正できる。
- 13-6 当該セクションのオブザーバーの報告によって記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）へのパンチ間違いが確認できた場合、競技監督が修正を行うことができる。
- 13-7 記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）提出後に当該セクションのパンチ間違いが発覚した場合は、競技監督もしくは大会審査員会で確認でき、認められた場合は点数を修正できる。ただし、修正申告できるのは当該ライダーおよび暫定リザルト発表後20分以内（IAスーパークラスは10分以内）までとし、正式リザルト後の修正申告はできない。

◆削除

（2025年） 12-2-3-6 自クラスゲートマーカーに前または後ろのタイヤが接触した場合。

■ 環境への配慮

トライアルは自然の中で行うスポーツであり、このすばらしいスポーツを存続するため、競技中のみならず、日頃の練習時にもライダー・関係者に下記事項に注意しなければならない。

- ① すべてのパーキングエリアを清潔に保つこと。
- ② パドックにおいては地面にオイル・ガソリン等をこぼさないように「マットまたはシート」の使用が義務づけられます（マットまたはシートは車体全長およびハンドル幅以上もの）。※ビニールシート等を使用した場合には吸収素材シートを準備し、こぼれた場合には素早く処理すること。
- ③ ゴミはすべて持ち帰ること。
- ④ 地元住民に配慮し、通行時や早朝のエンジン音など注意すること。
- ⑤ パーキング規制を重視し、緊急の場合のために通路を綺麗に保つこと。
- ⑥ 喫煙は指定場所以外では行わないこと。
- ⑦ 練習時間や練習場所は大会主催者の指定に従うものとし、自然破壊や近隣住民に充分配慮した行動をとること。
- ⑧ パドック利用においては他人を敬い、必要以上のスペースを確保せず、譲り合いの精神を常に持つこと。
- ⑨ パドックでの宿泊が認められた大会においては、周囲に迷惑のかかる行為（深夜におよぶ騒ぎ声や飲酒等）は厳に慎まなければならない。
- ⑩ パドック内における貴重品の管理はすべて、各自で責任をもつこと。主催者・施設は一切責任を負わない。
- ⑪ 会場では常に防火対策に努め、ABC粉末タイプ4型（内容量1.2kg）以上の消火器を準備しておく。

■ トライアルの精神

トライアルは、多くの主観的状况に加え、セクションオブザーバーも人間であること（それゆえ、ミスを犯すこともある）から、その決定について物議を醸す場合がある。その決定が正しくとも誤りであったとしても、決定を尊重することがトライアルの精神である。

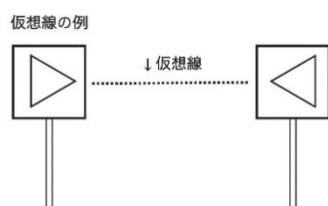
■ 用語、定義

ゲート

セクション内をクラスごとに制限する関門のこと。左右一対のゲートマーカーで表示され、原則120cm以上の幅を設ける。

仮想線

ゲートとゲートの間に想定される線のこと。



軌跡

前進状態にある車両によって引かれるラインのこと。

ループ

前進状態の車両が輪を描くことを指す。関連規則：12ペナルティー

進入

進入とは前輪または後輪の接地地点（地形含む）、もしくはフロントスピンドルまたはリヤスピンドルがゲートを結ぶ仮想線を越えたこと。

通過

通過とは前輪と後輪（前後とも）がゲートを結ぶ仮想線を通りすぎたこと。

自クラスゲートの通過

自クラスゲートの通過は前輪、後輪の順で行う必要がある（いったん自クラスゲート内に進入・通過してバックする場合は除く）。前輪のみ、後輪のみの通過、ゲートの飛び越えは失敗（5点）となる。関連規則12ペナルティー

1 トライアルの定義

- 1-1 トライアルとは、ライダーの技術および正確性が結果の基盤をなすモーターサイクルスポーツである。
- 1-2 コースの中にセクションが配置される。
- 1-3 セクションとは走行するライダーの技術がセクション審判員（オブザーバー）によって観察され、減点が科される区間である。
加えてコースを走行するにあたり、コースの一部またはコース全体に時間制限が与えられる。
- 1-4 コースはクロスカントリーの地形（林道など）で構成されても、インドアに設定されても良い。

2 完走者

完走者とは、車両自体の動力・推進力・重力等の自然現象およびライダー自身の筋力によって、人車一体となり、他人の力を借りずに規定された時間内にコース全体を走りきった者をいう。

なお、ライダーはライダー本人以外の車両での移動は認められない。

3 適用の範囲

国内のトライアル競技会は付則19トライアル競技規則、第1章 総則、**5** 大会特別規則ならびに公式通知、および各大会の主催者より配布される大会特別規則（公式通知等）によって開催される。

4 コース

- 4-1 競技は大別して、同時にスタートして各セクションを自由にめぐる方式と、コースを定めて順次セクションをまわる方式がある。大会特別規則（公式通知等）で特に定めない限り、コースを定めて順にセクションをまわる方式が採用される。
- 4-2 コースとはスタート地点から最終ゴール地点まで、定められた順路全体を指し、コース全長は大会特別規則（公式通知等）に記載される。
- 4-3 コースを定める場合、移動は原則として一方通行とする。例外的に交互通行となる場合、通路を区分けする、オフィシャルを配置するなど、安全上の対策が施される。
- 4-4 主催者が特に認めた補助や、認められたショートカットコース（コースをセクション順にまわらずにパドックに戻るため、主催者が設定する通路、近道）の使用は例外的に認められる。
- 4-5 コースマーク（案内矢印）、看板、コーステープによって表示されたルートを正確に通り、コースから外れてしまったライダーは、外れてしまった地点からコースに復帰すること。コース上では、大会役員、ライダーのみが車両に乗るまたは押すことができる。
- 4-6 セクション内を除き、コース上での部品や工具等の受け取りは許可されるが、車両の補修や部品交換作業はライダー本人が行うこと。
- ※全日本選手権ではルールが異なる（付則20 全日本トライアル選手権大会特別規則 **8** アシスタント...8-3-1参照）
- 4-7 コースにはセクショントライの順番待ちも含まれる。
- 4-8 コースの移動は原則として時速20km以下とし、観客の安全を最優先に走行すること。
- 4-9 ライダーパドック
主催者の定めるライダーパドック（選手用駐車場）内であれば、車両の補修、部品の交換等の補助を受けることができる。

5 下見

- 5-1 下見とはライダーがセクションの中に入って状況を確認することを指す。
- 5-2 ライダーは自身の競技スタート時間からゴール時間までセクションの下見が可能である。
- 5-3 セクション審判員（オブザーバー）の指示があった場合、その指示に従わなければならない。

6 セクション

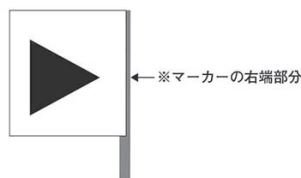
- 6-1 大会のセクション数は、大会特別規則（公式通知等）に記載される。
- 6-2 すべてのセクションには、セクション番号が明確に表示される。ライダーはその番号の順序に従って、第1セクションから順にトライすること（同時スタート方式を除く）。
- 6-3 すべてのセクションは、“セクション入口 (IN)”を「IN」と、“セクション出口 (OUT)”を「OUT」と明確に表示される。
- 6-4 “セクション入口 (IN)”と“セクション出口 (OUT)”の間のセクション区間内は、セクションテープ（色の区別はない）によって示される。これらのセクションを示すために使われるテープ、杭等のすべてを「セクション表示物」と呼ぶ。
- 6-5 セクションの幅は、200cm以上あることを原則とする。
- 6-6 各クラス用ゲート
一つのセクションを複数クラスが混走する場合、クラス別専用ゲートを設け、それはゲートマーカーで示される。この場合、各クラスとも自クラスのゲートを通過すること。ゲートを通過する順番は自由とする。他クラス用のゲートに進入してはいけない。
セクション内の同一ゲートを結ぶテープは、その対象クラスゲートの連続と見なす。ただし、減点対象となりうる行為は**12**ペナルティー 12-2-3-12を適用する。

- 6-7 ゲートはクラスを表示した側がIN（表）側、**その反対側**がOUT（裏）側とし、必ずIN（表）側から進入しなければならない。



IN(表)側

- 6-8 ゲートの示す範囲は、ゲートに示されている矢印の先端と先端の間（矢印の先端がマーカー端部でない場合、マーカーの内側端部がゲートの示す範囲とする）と解釈する。前後タイヤは厳密にこの間を通過すること。
- 6-9 セクション内にいる時間と減点が科せられる区間は車両のフロントホイールの中心（ホイールスピンドル）が“セクション入口”を通り過ぎてから、“セクション出口”を通り過ぎるまでとする。
- 6-9-1 セクショントライする際は、ライダーは必ずセクション審判員（オブザーバー）の許可を得なければならない。
- 6-10 クラスおよびゲートマーカーの色
- 6-10-1 ゲートマーカー
例：下記のような表示だった場合、矢印の先端でなく、マーカーの右端部分がゲートの示す範囲となる。



国際A級スーパークラス：IAS（赤地に黄文字or赤黄地にクラス文字）

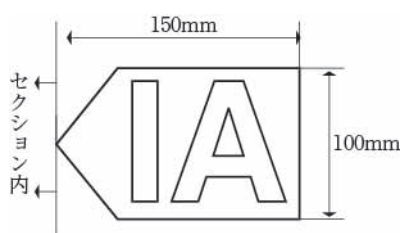
国際A級クラス：IA（赤地に白文字or赤地にクラス文字）

国際B級クラス：IB（緑地に白文字or緑地にクラス文字）

国内A級クラス：NA（黄地に黒文字）

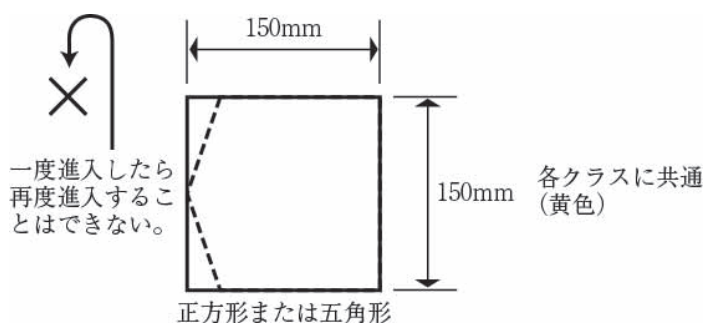
国内B級・ジュニア：NB（白地に黒文字）

レディースクラス（専用クラス・ラインを設ける場合）：L（ピンク地に赤文字orピンク地にクラス文字）



6-10-2 再進入禁止ゲート（黄色）

セクションの進行方向を特に定める場合、**再進入禁止ゲート**を左右一対で設ける。このゲートはすべてのクラスに適用され、いったん進入した後、再び進入することはできない。**また、再進入禁止ゲートにIN（表）／OUT（裏）はない。**



7 障 害

- 7-1 トライ中のライダーが予期しない障害物に妨害あるいは予期しない事態が起きた場合、セクション審判員（オブザーバー）の判断によって再トライが認められる（トライ順は最初とする）。
- 7-2 再トライが実施される場合、セクションの最初から妨害のあった地点までの減点は最初のトライのものをそのまま有効とする。セクション持ち時間については、セクショントライの初めから計測されるものとする。

8 持ち時間（タイムキーピング）

- 8-1 持ち時間
ライダーの持ち時間は大会特別規則（公式通知等）に記載される。すべてのライダーに、完走するための持ち時間が与えられる。
- 8-2 スタート時刻管理
スタート時刻コントロールは、スタート地点で行われる。
- 8-3 ゴール時刻管理
大会特別規則（公式通知等）に特別に記載のない場合、タイムコントロールは最終セクションを出てすぐに、明確に設置される。最終ゴール地点でゴールチェック（車両チェック）を受けるまで、ライダーは競技継続中とされる。
- 8-4 セクション持ち時間
セクション個々に持ち時間が設定される場合、持ち時間はどのライダーにも同等に与えられ、時間管理の方法とともに大会特別規則（公式通知等）に記載される。

9 練 習

- 9-1 大会日以前の設定されたコース内およびセクションでの練習は禁止される。
- 9-2 大会会場での練習が認められる期間と場所（ウォーミングアップエリア）は、大会特別規則（公式通知等）に記載される。

10 出場に関する手続き

- 10-1 大会へのエントリー
出場申込み方法の詳細は大会特別規則（公式通知等） または MFJ ホームページ [<https://www.mfj.or.jp>] に記載される。その申込み方法に従い申請し、定められた出場料を支払うこと。
- 10-1-1 締切日以降のエントリーは認められない。郵送やWebによる申込み等、定められた以外の方法は認められない。
- 10-1-2 受理された車両は、同メーカー同型式の場合を除いて変更できない。ただし、競技監督に書面（車両変更届）で申込み、許可が得られた場合は例外とされる。変更手数料は5,500円（税込）。
- 10-2 出場料
出場料は大会特別規則（公式通知等）またはMFJホームページ [<https://www.mfj.or.jp>] に記載される。
- 10-3 アシスタントの登録
アシスタントの登録は認められる。登録したアシスタントは、当該年度有効なエンジョイライセンス以上のライセンス所持者とする（全日本選手権では国内B級以上）。
認められた場合、付則20 全日本トライアル選手権大会特別規則 **8** アシスタント（全日本以外はエンジョイライセンス以上が適用される）、付則20 全日本トライアル選手権大会特別規則 **12** ペナルティーが適用される。
出場料、ゼッケン、登録申込、その他事項は大会公式通知等により記載される。

- 10-4 ライダーのゼッケンナンバー
ライダーは、主催者から指定されたナンバーを車両検査までに、規定の書体、規定の色（レースナンバー参照）で記入すること。
- 10-5 出場者受付
大会当日にライダー・アシスタントの出場資格の確認を行う。
決められた時間内にライダー（本人）またはチーム員等がMFJライセンス、参加受理書、健康保険証（コピー可）、**メディカルパスポートを提示、誓約書を提出して**出場資格の確認を受けなければならない。
出場者受付の時間は、大会特別規則（公式通知等）に記載される。
- 10-6 未成年者は競技会参加承諾書をライセンス申請時に提出するものとし、当該年度のMFJ公認・承認競技会において適用される。

11 技術規則関連

- 11-1 モーターサイクルの装備
- 11-1-1 出場車両
車両は付則21 トライアル基本仕様に合致しており、メインフレームおよびクランクケースには認識番号が、刻印または刻印されたプレートの貼付等により表示されていなければならない。
全日本選手権において認識番号が表示されていない、または新しいフレームおよびクランクケースを使用する場合は、刻印されたプレートを新たに貼付すること。改造されて型式が判別できないような車両、または車両検査で不合格となった車両は競技会への出場が認められない。
- 11-2 ライダーの装備
ライダーは移動を含めて車両に乗車するときは、以下「11-2ライダーの装備」を順守すること。
- 11-2-1 ヘルメット：第3章 競技会 **22** ライダーの装備（MFJ公認ヘルメットおよびレーシングスーツ）参照のこと。
- 11-2-1-1 ヘルメットはMFJがトライアル用もしくはモトクロス用として公認したものでなければならない。
- 11-2-1-2 MFJの公認ヘルメットには、MFJ公認マークが貼付されている。
※MFJ公認マーク〈2022規格〉



予告事項：旧規格「使用期限 2026年12月31日」のヘルメットおよび製造後10年が経過したヘルメットは2027年から使用できなくなる。

※公認マーク規格および使用期限については、巻末ページを確認ください。

- 11-2-1-3 ヘルメットおよび装備品（**リュック等バッグも含む**）へのウェアラブルカメラ等（各種取付ステーも含む）の**装着**およびイヤホンやマイクをヘルメットに付加することは禁止する。
- 11-2-2 服装は、長ズボン、長袖でなければならない。グローブ、**トライアルブーツまたはくるぶし以上膝下周辺までを保護する突出部分のない皮革または同等の強度を持った樹脂等で形成されたブーツ**の着用が義務づけられる。
- 11-2-3 バックプロテクター、チェストガード等のプロテクター類の装備をすることが強く推奨される。
- 11-2-4 下記の部位はウェアに皮革製のパッドが装備されているか、または発泡プラスチックで覆うことを強く推奨する。ウェアにパッドが装備されていない場合は、プラスチック成型のリブ付パネルのもので、最低2mmの厚さがあるものを下記部位に装備することを強く推奨する。
保護部位：肩、肘、股関節および膝

- 11-2-5 マウスガード（マウスピース）
口の怪我防止のために、カスタムメイドのマウスガードの装着が推奨される。
マウスガードの色は口の中の出血が見分けやすいように赤色以外の明るい色が望ましい。常時噛み合わせをしていないと固定されないタイプのものは、誤飲防止のため使用を禁止する。
- 11-3 車両検査
大会当日出場資格の確認後、ライダーの車両検査を行なう。検査を受ける車両は、ライダー1名に対し1台に制限されている。
- 11-4 部品のマーキング
- 11-4-1 部品がマーキングされる場合は、付則20 全日本トライアル選手権大会特別規則 **9** 車両検査 9-3参照のこと。
- 11-4-2 マーキングされた部品は、競技期間中交換が禁止される。
- 11-4-3 サイレンサーがマーキングされた後にダメージを受け、大幅に音量が増加した場合、サイレンサーを交換するか走行を停止すること。
- 11-4-4 サイレンサーを交換する場合、オフィシャルに申告すること。
- 11-4-5 サイレンサーを交換した車両は、最終ラップの車両チェック後、主催者によって車両が保管され音量検査が行なわれる。
- 11-5 ライダーの責任
マーキングが行なわれた場合、ライダーはパーツが適正にマーキングされたことを、自分の責任で確認してから競技を開始すること。
- 11-6 部品のチェック
主催者は、競技中にどの車両でも、いつでも部品をチェックすることができる。マーキングされた部品からマークが消えていた場合、その部品を交換したと見なされる。
- 11-7 競技中（セクショントライ中）のライダーと第三者間（アシスタント・チームマネージャー等関係者）の電波を発する電子機器（無線機・携帯電話・ブルートゥース等）による通信は一切禁止する。ただしセクショントライ中以外（セクション外）での携帯電話を使用した通話およびデータの送信は使用可能とする。

12 ペナルティー

- 12-1 タイムペナルティー **(00分を1秒でも超えた時点で対象)**
- 12-1-1 スタート遅れ1分までごと：1点
- 12-1-2 スタート遅れ10分を超えた場合：失格
- 12-1-3 ゴールタイム遅れ：失格（全日本選手権付則20 全日本トライアル選手権大会特別規則 **12** ペナルティー 12-1-2～3）
- 12-2 減 点
- 12-2-1 セクションにおいて
一フォルト1回：1点
一フォルト2回：2点
一フォルト3回以上：3点
- 12-2-2 フォルトの定義 **※関連規則：判例集**
ライダーの一部または車両の一部（タイヤ、フットレスト（ステップ）、エンジンプロテクションプレートを除く）が地面に接する、地形（地面、木、枝、壁、石、岩、杭などを総称して「地形」と呼ぶ）によりかかった場合。
以下の場合、フォルト1回と見なす。
・フットレスト（ステップ）に足が乗っている場合でも、そのフットレスト（ステップ）上のつま先、側面、または足の裏部分が接地しバランス修正をした場合。

- ・体の部分で手、足についてはその付け根から先を同一と見なす。したがって足着きと同時に膝を接地しても、1回のフォルトである。
- ・足をついた状態でつま先とかかとを交互についた。
- ・足をついた状態のまま、引きずられてしまった。
- ・片足を軸にして、車両を回転させた。
- ・手を立ち木、壁についた。
- ・体または車両（タイヤ、フットレスト、エンジンプロテクションプレートを除く）が地形にもたれかかり、バランスを修正した。

12-2-3 “失敗（減点5点）”の定義 **※関連規則：判例集**

12-2-3-1 当該セクション審判員（オブザーバー）の許可を受けた後、セクションインしなかった場合。

12-2-3-2 **セクション走行中に、ライダー（手首など）とイグニッションキルスイッチのストラップ（ランヤード）が接続されていないかった。またはライダーがセクションを走行中/セクションを出るときに、セクション審判員（オブザーバー）がキルスイッチの故障を確認した場合。**
※ライダー（手首など）とストラップ（ランヤード）が接続されている状態で、マグネットのみが外れた場合は除く

12-2-3-3 “セクション入口” “セクション出口” “ゲートマーカー” “再進入禁止ゲート”の表示をリアホイールがフロントホイールより先に通過した場合。

12-2-3-4 自クラスゲートを通過しなかった場合。**または前輪のみ、後輪のみで通過した。※関連規則：用語、定義**

12-2-3-5 自クラスゲートに裏側（アウト側／関連：6-7）から進入した場合。

12-2-3-6 自クラスゲートに進入または通過した後、後退で戻り、再び自クラスゲートを通過しなかった場合。

※関連規則：用語、定義

12-2-3-7 **再進入禁止ゲート**をいったん進入した後、再び進入した場合。

12-2-3-8 方向を問わず、他クラスのゲートに進入した。ただし、他クラスのゲートが同位置または重ね合わされている場合は除く。

12-2-3-9 ライダーが足を着いた状態で、車両が後退した場合。

12-2-3-10 セクション内でライダーが外部からの援助を受けた場合。なお、登録外のアシスタントや他のライダーによるセクションの状況変化、ライン指示、時間告知等、あらゆるサポート行為が援助と見なされる可能性がある。ただし、当該ライダーに登録されたアシスタントの口頭によるライン指示と時間告知は可能とする。

12-2-3-11 ライダーまたは車両が、直接マーカーや杭などセクション表示物（関連：6セクション6-4）の現状を変化（テープ、マーカー、杭などに車両またはライダーが直接干渉して壊す、たるませる、移動させる、押し倒す、引きちぎる等の行為）させ、**元に戻す修正が必要になった場合**。ただし、セクション番号、セクション入口（IN）、セクション出口（OUT）の表示物は対象外となる。

12-2-3-12 車両のフロントタイヤまたはリアタイヤが、セクションの境界（テープなど）上面を完全に越えて接地した場合。

12-2-3-13 車両のサイド、またはリアフェンダー後端の後方に両足をついて車両から降りてしまった場合。

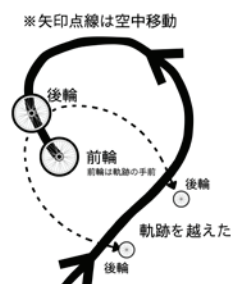
12-2-3-14 車両が停止している、かつ足着きの状態でハンドルバーが地形に接地した場合。

12-2-3-15 **完全なループをしたあとに前輪または後輪が元の軌跡を越えた（バックも含む）。空中の場合は前後のスピンドルシャフトの位置で判定される。関連規則：用語、定義**

失敗となる例

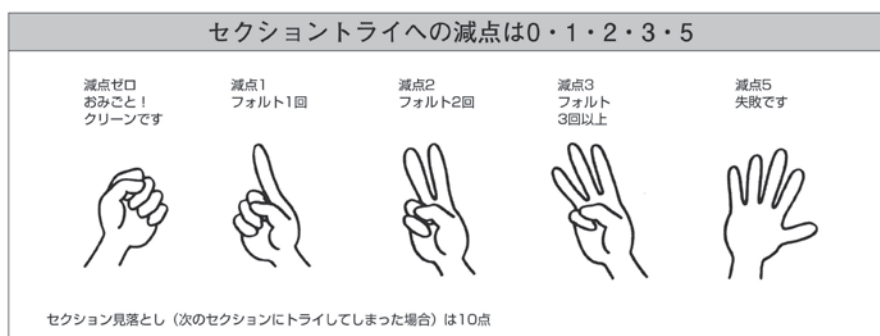


ならない例



※軌跡に接触はしているが越えてはいない

- 12-2-3-16 時間内にセクションを完走できなかった場合（セクション持ち時間がある場合）。
- 12-2-3-17 当該セクションのトライ回避（エスケープ）をセクション審判員（オブザーバー）に申告し認められた場合（申告エスケープの定義12-3）。
- 12-2-4 セクション見落とし
順次セクションをめぐる方式の場合、次のセクションにトライしてしまった。同時スタート方式の場合、カード提出時に採点パンチ等の記録がなかった。それぞれ見落としたセクションに対して。また、両方式ともトライをしたがパンチ等を受けていなかった場合も同様の取り扱いとなる。**当該セクション**に対して10点
- 12-2-5 一つのセクションで、いくつかの減点が累積する場合、もっとも重い減点だけが適用される。しかし以下の減点は加算される。
- 12-2-5-1 ライダーがセクションの状況を故意に変化させた。5点（加算）
- 12-2-5-2 失敗後セクション審判員（オブザーバー）の指示に従わず、セクション持ち時間経過後も、セクションから出ない。5点（加算）
- 12-2-6 **ライダーがセクション走行中にセクション審判員（オブザーバー）が、手またはプラカードで示す減点数は暫定的なものであり、スコアカードやパンチカードなど記録用紙に記したものが、当該セクションにおける減点数である。**



- 12-2-7 記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）の破損等によって採点を確認できない場合。当該セクションに対して減点10点
- 12-2-8 **記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）を提出後、当該セクションの減点数に誤り（実際の判定と記録用紙の点数に相違がある/虚偽の報告）があることが発覚した場合。当該セクションに対して10点。ただし、暫定リザルト発表後20分以内（IAスーパークラスは10分以内）までに本人から申告があった場合はこの限りではない。**
- 12-3 申告エスケープの定義
ライダーが当該セクションのトライ回避を申告する行為。ただし、車両故障等により車両を放置し、ライダーのみでの申告はできない。
- 12-4 以下に記す罰金、失格は審査委員会の承認に基づき、競技監督からライダーへ通告される。
- 12-4-1 罰金
ライダーによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動
その軽重により審査委員会が第4章 MFJ 裁定規則に基づき罰則を科す。
- 12-4-2 失格
ライダーは以下の行為により失格となる。
- 12-4-2-1 ライダーによるオフィシャルへの暴力的な言動、行動（重大な場合）。
- 12-4-2-2 ヘルメット未装着での走行。
- 12-4-2-3 大会日以前の設定されたコース内およびセクションでの練習。
- 12-4-2-4 競技期間中のセクションでの練習。
- 12-4-2-5 ゼッケンを他者と交換した。
- 12-4-2-6 車両規定に合致していない車両を使用した。

- 12-4-2-7 規定外タイヤの使用。
- 12-4-2-8 認められないガソリンの使用。
- 12-4-2-9 禁止された薬物の使用。
- 12-4-2-10 コース指示の見落とし（コースの定めがある場合）。
- 12-4-2-11 コースを見失った地点以外からのコース復帰（コースの定めがある場合）。
- 12-4-2-12 競技中の車両、またはライダーの変更。
- 12-4-2-13 大会で成績を上げようとしないライダー、他のライダーのアシスタント（全日本選手権のみ）のように働くライダー。
- 12-4-2-14 パドック以外の場所で給油（燃料タンク交換を含む）**またはバッテリー交換**をした。
- 12-4-2-15 パドック以外の場所で、ライダー以外の者が車両補修や部品交換作業を行った場合（コース上での部品や工具等の受け取りは許可される）。全日本選手権に限り、当該ライダーに登録されているアシスタントのみライダーと同じ作業が許可される。
- 12-4-2-16 サイレンサーを交換した車両で、最終ラップのマシンチェック後、主催者によって車両の音量検査が行われ規制値を超えていた場合。
- 12-4-2-17 マーキングされた部品からマークが消えていた場合（部品を交換したと見なされる）。
- 12-4-2-18 当該大会に出場を認められたライダー本人以外の者によるセクショントライの順番待ち。
- 12-4-2-19 車両故障などでライダー以外の者が車両を移動させた（コース内外等）。
- 12-4-2-20 競技中（セクショントライ中）のライダーがアシスタントおよびチームマネージャー等関係者と電波を発する機器（無線機・携帯電話・ブルートゥース等）による相互通信を行なった場合。

13 結果の記録（スコアカード、パンチカード、記録カード）

- 13-1 **記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）** が使用される場合、溶けにくい素材でできたカードが配布される。
- 13-2 ライダーはスタート時に**記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）**を受け取りラップごとに交換すること。
- 13-3 スコアカードはライダー自身がパンチを受け、管理しなくてはならない。
- 13-4 セクションでのパンチの点数は、その場でライダーが確認しなければならない。
- 13-5 **当該セクションで記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）へのパンチの間違いが発覚した場合はその場でオブザーバーが修正できる。**
- 13-6 **当該セクションのオブザーバーの報告によって記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）へのパンチ間違いが確認できた場合、競技監督が修正を行うことができる。**
- 13-7 **記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）提出後に当該セクションのパンチ間違いが発覚した場合は、競技監督もしくは大会審査員会で確認でき、認められた場合は点数を修正できる。ただし、修正申告できるのは当該ライダーおよび暫定リザルト発表後20分以内（IAスーパークラスは10分以内）までとし、正式リザルト後の修正申告はできない。**
- 13-8 ライダーは自分の**記録用紙（スコアカードやパンチカードなど）**に各セクションでパンチ（マーク）を受け、求められたときにはオフィシャルにスコアカードを手渡す義務がある。
- 13-9 スコアカードは折り曲げたりしてはならない。
- 13-10 スコアカードの交換場所は大会特別規則（公式通知等）に示される。

14 セクションの閉鎖

- 14-1 競技時間が残されていても、最終ライダーの**通過を確認**後バックマーカー（セクション閉鎖を指示するオフィシャル）がセクションを閉鎖する場合がある。
- 14-2 同時スタート方式の場合、タイムスケジュールで定められた時刻にセクションが閉鎖される。

15 結果と順位

大会の優勝者は、完走者の中で、減点数がもっとも少ないライダーである。

16 大会の中断

大会が終了前に中断されてしまった場合、審査委員会はその大会を無効・取り消しとするか、その結果と賞を正当とするか、状況によって判断する。

17 同 点

- 17-1 同点が生じた場合、0点（**クリーン**）が最も多いライダーを上位とする。
- 17-2 依然として同点だった場合「1点がもっとも多いライダー、2点がもっとも多いライダー、3点がもっとも多いライダー」という順序で判断する。
- 17-3 それでも同点だった時は、計測されている場合については少ない所要時間で完走したライダーを上位とする。同時オープン方式の場合は先にゴールしたライダーが上位となる。
- 17-4 所要時間を計測していない場合、最終ラップの成績上位者を上位とする。
- 17-5 最終ラップも同点だった場合、最終ラップの前のラップ、依然として同点だった場合さらにその前のラップという順序で判断する。

18 賞

得点は第3章 競技会 **35** 公式得点（ポイント）による。

19 抗 議

- 19-1 抗議は第4章 MFJ裁定規則 **44** 競技会における大会審査委員会への抗議による。
- 19-2 抗議は暫定結果発表後20分以内（全日本、地方選手権共通）に当該ライダーおよびエントラント代表者だけが行うことができ、**抗議書の提出と抗議保証料を現金で支払う**。国際A級スーパークラスのみ抗議受付時間は、暫定結果発表後10分以内とする。

競技会	抗議保証金
国際・準国際競技会：全日本選手権（ロードレース、モトクロス、トライアル）、 地方選手権（※1）	88,000円（税込）
国内格式競技会：全日本選手権（スーパーモト、エンデューロ、スノークロス）、 地方選手権（※2）	33,000円（税込）
承認競技会	11,000円（税込）

※1 地方選手権（国際格式）

※2 地方選手権（国内格式）

- 19-3 セクション審判員（オブザーバー）が下した判定に対する抗議はできない。
- 19-4 車両の分解検査に要した費用は、抗議不成立の場合は提出者、抗議成立の場合は対象者が負担する。その費用の算定は車検長が行なう。

20 本規則の解釈

本競技規則および競技に関する疑義または本規則に記載されていない事項については、大会事務局宛に質疑をすることができる。なお、この回答は大会審査委員会の解釈、決定が最終的なものとして扱われるものとする。

21 本規則の施行

本規則は、2026年1月1日より施行する。

付則 判例集

以下は現在までの適用例をまとめたものです。規則に準じて適用されます。

マナーに関することから

- 1) 競技中の事故や、競技の参加を取りやめる（リタイヤする）場合は、速やかに大会本部へ連絡すること。

※関連規則：第3章 競技会 20 競技参加者の遵守事項

コース、ウォーミングアップ

- 1) 競技開始前や終了後に競技車両でコース内に立ち入ったり、競技終了後にウォーミングアップエリアや競技エリアで練習することは禁止される。

ライダーの装備に関して

- 1) MFJ 公認ヘルメットであり MFJ の公認マークが貼付されていないといけない。
- 2) 競技会の車両検査受け付け時に、ヘルメット検査が行われる。検査に合格しなかったヘルメットは、当該ライダーの安全上その使用を禁止する。

●使用が認められない例

- 1) 帽体本体の樹脂部分に至る損傷（ひび割れ）がある場合。
- 2) 帽体本体の樹脂部分を削るようなスライド痕がある場合。
- 3) 帽体本体の発泡スチロールの緩衝材に損傷（ひび割れ・窪み）がある場合。
- 4) 顎紐取り付け部、Dリング取り付け部、紐自体の劣化等ヘルメットの固定に支障がある場合。

推奨

ヘルメットは使用頻度や保存状態で経年変化に差があるが、使用開始後10年を経過した製品は使用しないことを推奨する。

競技の進行に関して

- 1) ライダーはセクション内で一切の援助を受けてはならない（当該ライダーに登録されたアシスタントの口頭によるライン指示と時間告知は可能とする）が、“失敗”後は例外とする。

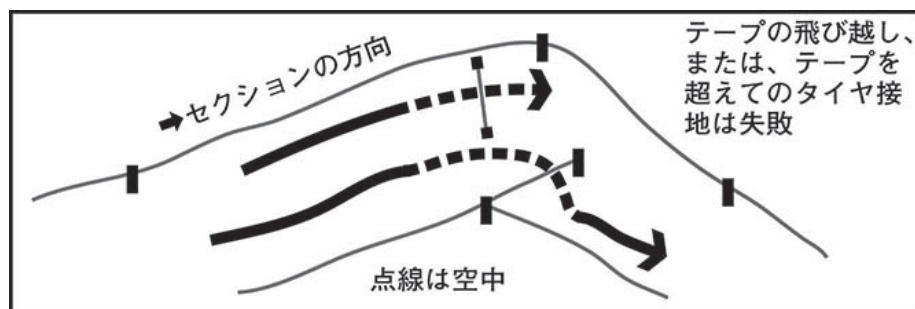
セクション関連

- 1) 複数クラスが混走し、クラス別ゲートが使用される場合、当該クラス以外はセクション内のどこを通っても良いと解釈される。

ペナルティー関連

1) 以下の場合、“失敗5点”と見なす。

(テープを飛び越える失敗例)



2) 以下の場合、“減点”または“失敗”と見なされない。

- ライダーの身体や車両（タイヤ、フットレスト、エンジンプロテクションプレートを除く）の部分が地形に接触したが、明らかなバランス修正はしなかった。
- セクション表示物への単純な接触で、状況の変化はしなかった場合。
- テープの上からフローティングターンなどによりフロントタイヤ、リアタイヤのどちらか片方がテープ外に出て、地形に接触しないでテープ内に着地した。
- V字型の地形でフットレスト（ステップ）がかみ込んで停止した場合、フットレスト（ステップ）に足が乗っている場合は“足つき減点”にならない。そのフットレスト（ステップ）上のつま先、側面、または足の裏部分が接地している場合、足つき減点の対象とならない。